

福岡大学生体肺移植プロトコール

実施基準に関する我々の Policy

白石 武史 ^{1,5)}	平塚 昌文 ¹⁾	樋口 隆男 ¹⁾
柳沢 純 ¹⁾	宗像 光輝 ¹⁾	巻幡 聡 ¹⁾
上野 孝男 ¹⁾	吉永 康熙 ¹⁾	岩崎 昭憲 ¹⁾
山内 靖 ²⁾	三上 公治 ²⁾	乗富 智明 ^{2,5)}
山下 裕一 ^{2,5)}	久良木隆繁 ³⁾	藤田 昌樹 ³⁾
渡辺憲太郎 ³⁾	高石真奈美 ^{4,5)}	白日 高歩 ^{1,5)}

- 1) 福岡大学医学部外科学教室呼吸器・乳腺内分泌・小児外科
- 2) 福岡大学医学部外科学教室消化器外科
- 3) 福岡大学病院呼吸器科
- 4) 福岡大学病院臓器移植コーディネーター
- 5) 福岡大学病院移植医療室

要旨：生体肺移植は脳死移植を待てない生命危急の肺移植待機患者に実施される術式として定着しつつある。北米および欧州の移植プログラムは脳死肺移植が主体であり生体肺移植は例外的であるのに対し日本では脳死臓器提供数の極端な不足により生体肺移植が主流となりつつあり、むしろ生体肺移植が「標準的肺移植」の一つとしての地位を得つつある。このような状況の違いは生体肺移植の考え方にも微妙な差を生じつつあるように思われ、我々は「標準的肺移植」の一つである生体肺移植は高い実施リスクを伴う生命危急の場合の施行ではなく、その前段階でより安全に実施すべきものではないかと考える。

キーワード：肺移植，生体ドナー，生体肺葉移植